

急変時の介護医学

急変を見抜くのは、利用者の生活を創っている介護職の力量にかかっています。
また、病状の安定のほとんどは、医師・看護師以上に介護職が握っています。
さらに、ケアの質を上げると診断が早まります。本セミナーでは、
病状管理の方程式をマスターし、急変時の見抜き方と考え方を学びます。

京都

2019年

日時：4月13日(土) 10:30~16:00

会場：京都教育文化センター (302号)

(京都府京都市左京区聖護院河原町 4-13)

☆京阪電車「神宮丸太町駅」5番出口より徒歩3分

受講料：7,000円

きよふじ だいすけ
講師：清藤大輔

しいの木クリニック・院長/医師



1994年、熊本大学医学部卒。
仙台市での在宅ホスピス勤務医を経て、2003年より11年間、老健施設の施設医を務める。
2014年より介護老人保健施設・志木瑞穂の里副施設長、2015年より施設長。2018年、同施設退任後、ういずクリニック新横浜・院長を経て、2018年12月より現職。

<プログラム>

10:30~11:30 ◎急変の早期発見と早期対応

急変とはどういう事態か/なぜ急変するのか/急変は予防できるか/慢性疾患の急性増悪/急変のリスク因子/事故防止の3つのレベル/救急車が来るまでにすべきこと/まずは脱水を疑う/発熱を見たら?/薬と急変

11:45~12:45 ◎2つ以上の症状の危険な組み合わせ

意識レベルの低下+(呼吸器症状、むくみ・息切れ、血圧上昇、手足の麻痺、冷汗、血圧低下)/頭痛+(嘔吐、首の痛み)/38度以上の発熱+(脈90以上、血圧低下、低血糖、腎機能低下)/入浴後+めまい/多量の排便+意識障害

(昼食・休憩)

13:45~14:45 ◎急変時のサインと緊急性の高い症状

バイタルサインのパニック値、症状がどんどん悪くなる、急な体調変化・ADL低下、手足のしびれ、突然の激しい頭痛・食欲不振・胸痛・腹痛、便の色の異常、嘔吐、けが・骨折、薬の処方が変わった後の新規症状

15:00~16:00 ◎急変時の症状別対応

高熱/誤嚥・窒息/呼吸困難/意識障害/けいれん・てんかん/激しい頭・胸・腹痛/吐血・下血/骨折/やけど/鼻出血/低血糖発作と症状/入浴時の高血圧と急変

主催

なるほどケア塾

〒189-0011 東京都東村山市恩多町 3-39-13-101 ㈲円窓社内

お問い合わせ ☎042-306-3771

*受講票はお送りしません。満員でお断りする場合のみ一週間以内にご連絡をさし上げます。

*受講料は当日会場で承ります。

Fax: 042-306-3772

お申し込みは今すぐこちらへ Fax

<参加者名>

*施設の場合は施設名もご記入ください。

4/13(土) 京都

<参加人数>

名

<住所>〒

(自宅・職場)

<TEL>

<FAX>